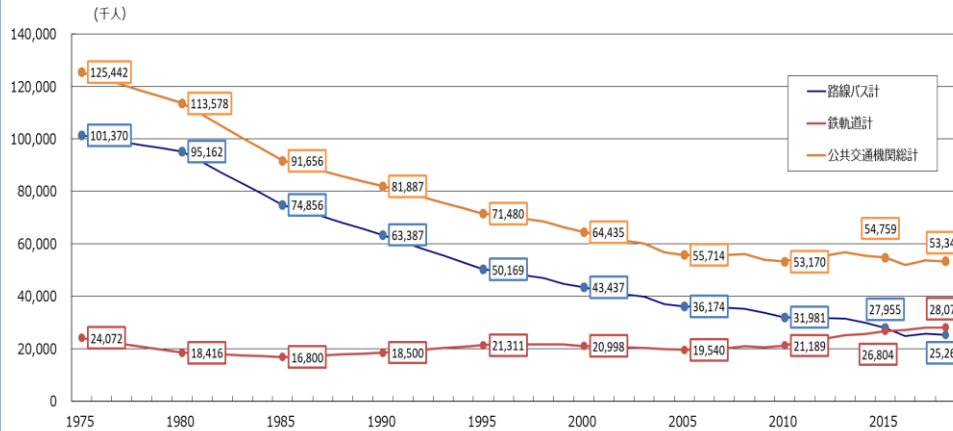


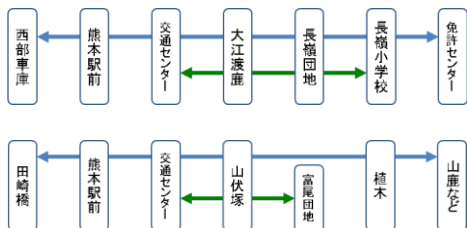
1. 公共交通の利用者数



- 路線バスの利用者数 H29: 25,617(千人) → H30: 25,263(千人)
 - 鉄軌道の利用者数 H29: 28,104(千人) → H30: 28,079(千人)
- 鉄軌道は増加傾向にあるが、路線バスは依然として減少している

2. 昨年度の取組状況

- 競合路線のダイヤ改善、統一時刻表の導入
- * ダイヤ改善: 東西線と渡鹿長嶺線、山鹿線と富尾団地線



路線	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
山鹿線	07	10	13	16	19	22	25	28	31	34	37	40	43	46	49	52	55
玉名線	07	10	13	16	19	22	25	28	31	34	37	40	43	46	49	52	55
河内温泉センター	07	10	13	16	19	22	25	28	31	34	37	40	43	46	49	52	55
小島方面	07	10	13	16	19	22	25	28	31	34	37	40	43	46	49	52	55
山鹿線	07	10	13	16	19	22	25	28	31	34	37	40	43	46	49	52	55
玉名線	07	10	13	16	19	22	25	28	31	34	37	40	43	46	49	52	55
河内温泉センター	07	10	13	16	19	22	25	28	31	34	37	40	43	46	49	52	55
小島方面	07	10	13	16	19	22	25	28	31	34	37	40	43	46	49	52	55
山鹿線	07	10	13	16	19	22	25	28	31	34	37	40	43	46	49	52	55
玉名線	07	10	13	16	19	22	25	28	31	34	37	40	43	46	49	52	55
河内温泉センター	07	10	13	16	19	22	25	28	31	34	37	40	43	46	49	52	55
小島方面	07	10	13	16	19	22	25	28	31	34	37	40	43	46	49	52	55

▲ 競合路線の状況(九州産交バスと都市バス)

▲ 2社共通の時刻表

- 植木・北部、小島・城山方面の再編の取組
- 小島・城山方面、植木・北部方面の再編について、課題を整理し、バス事業者、国、県、関係自治体と協議を実施
- バス路線の評価検討
- ICカードの利用実績データを基に、バス事業者と連携し、区間ごとの運行状況や利用実態や沿線の人口分布、施設の立地状況等について各路線の評価を実施 → (令和元年度～バスのあり方検討会にて活用)

3. 今年度の取組

- 植木・北部方面及び小島・城山方面の再編
- 利用状況に応じた幹線・支線化や運行の効率化などの再編を10月1日に実施



再編の概要

- 植木 北部方面
- 植木バス停で幹線・支線化を行う
- 山鹿線…直通運行を維持
- 玉名線…利用状況に応じた直通運行と幹線・支線化
- 南関線…植木で幹線・支線化
- 植木線…増便(植木⇄センター間で需要に応じた便数を維持)
- 小島 城山方面
- 天水支所～河内温泉センター間で幹線・支線化
- 玉名駅⇄河内温泉センター
- 交通センター⇄小天温泉・天水支所

再編の効果

- 区間短縮による定時性の向上
- 運行効率化による乗務員の確保

乗換改善の取組

- ① 乗換地点の環境について
 - ・上屋・ベンチ等の整備、バスロケモニター設置



▲ 植木バス停



▲ 河内農協前バス停

- ② 運賃について

・くまモンのICカードのポイント還元にて、運賃負担の軽減策を実施

- 植木・北部方面及び小島・城山方面再編の取組
- バスロケーションシステム導入(4月) ・新案内番号の導入(9月)
- バスロケーションシステムのデータ(今年度開始)を活かした運行ダイヤ改善の検討